

第 25 回 愛媛形成外科研修会
抄 録 集

日 時 平成 22 年 6 月 19 日 (土) 17 時 30 分～
場 所 独立行政法人国立病院機構 四国がんセンター
3 階 研修室
松山市南梅本町甲 160 TEL : 089-999-1111)
当番世話人 愛媛大学医学部附属病院
皮膚科形成外科診療班 中岡 啓喜

第 25 回 愛媛形成外科研修会

研修会

1. 受付は当日 17 時 00 分より会場で行います。
※お車でお越しの方は、誠に申し訳ございませんが一律 100 円の駐車料金がかかります。
※会場前通路の改修に伴い、エレベーター降りて向かって左側通路は封鎖されております。右側通路より会場へお越してください。
2. 参加費は 2000 円を申し受けます。
3. 演者で、まだ研修会会員でない先生は、入会の手続きをお取り下さい。
4. 討論時間は、一題あたり 5 分を予定しております。
5. 発表形式は Windows Power Point 2003 による PC プレゼンテーションをお願いいたします。(当日は USB メモリーあるいは PC 本体を持参して下さい。)

研修会総会

19 時 35 分から同会場にて行います。

連絡先

〒791-0295 愛媛県東温市志津川
愛媛大学医学部皮膚科形成外科診療班 中岡 啓喜
E-mail: hirok@m.ehime-u.ac.jp
TEL: 089-960-5350

会歴

会 期	世 話 人	会 場	日 時	参加者
第1回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	松山成人病センター	平成10年7月4日	15名
第2回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	愛媛県医師会研修所	平成10年12月5日	17名
第3回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	松山成人病センター	平成11年6月19日	20名
第4回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成11年11月27日	19名
第5回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成12年6月24日	17名
第6回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 会議室	平成12年12月9日	20名
第7回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成13年6月23日	23名
第8回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成13年12月8日	23名
第9回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 会議室	平成14年6月8日	27名
第10回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成14年12月14日	27名
第11回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成15年6月28日	25名
第12回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 会議室	平成15年12月13日	25名
第13回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成16年6月26日	26名
第14回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成16年12月4日	29名
第15回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 会議室	平成17年6月18日	31名
第16回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成17年12月10日	35名
第17回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成18年6月24日	31名
第18回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 研修室	平成18年12月9日	26名
第19回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成19年6月16日	37名
第20回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成19年12月15日	30名
第21回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 研修室	平成20年6月14日	30名
第22回	庄野 佳孝 (松山赤十字病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成20年12月6日	30名
第23回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成21年6月27日	32名
第24回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成21年12月12日	28名
第25回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 研修室	平成22年6月19日	名

独立行政法人 国立病院機構

四国がんセンター

愛媛県松山市南梅本町甲 160

(TEL : 089 - 999 - 1111)

最寄り駅：伊予鉄横河原線 梅本駅下車 徒歩 5分

伊予鉄横河原線 牛湍団地前駅下車 徒歩 6分



プログラム

Section 1 (17:30～17:55)

座長：市立宇和島病院形成外科 野澤 竜太

1. Latham 装置を用いて術前矯正を行った中間顎突出を伴う両側唇裂の 1 例
愛媛県立中央病院 形成外科 前信 友梨
2. 母指形成不全 TypeII に小指外転筋移行術を行った 1 例
愛媛県立中央病院 形成外科 石野 憲太郎
3. 拘扼輪症候群の 1 例
愛媛大学医学部皮膚科（形成外科診療班） 山下 昌宏

Section 2 (17:55～18:30)

座長：済生会今治病院形成外科 戸澤 麻美

4. 後頭部に発症した、リンパ節転移を伴う eccrine porocarcinoma
四国がんセンター形成外科 鈴木 良典
5. Hemifacial Dismasking Flap アプローチによる腫瘍切除と遊離肩甲骨弁+広背筋皮弁で下顎再建を行った臼後部癌の 1 例
静岡県立静岡がんセンター 再建・形成外科 中川 雅裕
6. 国立がん研究センターで行っている頭頸部再建時の内頸静脈本幹への端側吻合の実際
国立がん研究センター東病院 形成再建外科 永松 将吾

Section 3 (18:30~19:05)

座長：わたなべ皮ふ科・形成外科 渡部 隆博

7. エピネフリン添加キシロカインは向精神病薬服用患者に絶対禁忌か

愛媛労災病院 黒住 望

8. 肥厚を伴う巻き爪に対するワイヤー治療

松山市民病院 形成外科 光野 乃祐

9. 腸腰筋膿瘍、多発膿瘍を合併した仙骨部褥瘡の1例

松山赤十字病院形成外科 戸田 皓大

10. シリコンバッグによる豊胸術後5年目に異物肉芽腫を発症した1例

三豊総合病院 形成外科 木村 知己

特別講演(19:05~19:35) 座長：愛媛大学医学部皮膚科形成外科診療班 森 秀樹

「かいま見たインド医療事情」

済生会今治第二病院 顧問 形成外科 大塚 壽

Section 1 (17:30~17:55)

座長：市立宇和島病院形成外科 野澤 竜太

1. Latham 装置を用いて術前矯正を行った中間顎突出を伴う両側唇裂の 1 例

愛媛県立中央病院 形成外科

○前信友梨 小林一夫 中川浩志 徳永和代 尾崎絵美 石野憲太郎

(5 分)

突出の著しい中間顎がみられる両側唇顎裂では、口唇閉鎖手術・顎裂閉鎖手術を行う際にしばしば困難が生じることか指摘されている。今回われわれは、Latham 装置のうち ECPR 装置 (elastic chain premaxillary repositioning) を術前に使用して maxillary segment の拡大や中間顎の後退を図り、DeHaan 変法による手術を行ったので報告する。症例は両側唇顎口蓋裂患者で生後 12 ヶ月時に全身麻酔下にて本装置を装着した。術後 0.5mm/日で拡大を行い、生後 15 ヶ月目に装置の撤去と唇裂手術を施行した。

2. 母指形成不全 TypeII に小指外転筋移行術を行った 1 例

愛媛県立中央病院 形成外科

○石野憲太郎 小林一夫 中川浩志 徳永和代 尾崎絵美 前信友梨

(5 分)

症例は 3 歳男児、生下時より両母指多指症を認めた。

Floating type の左母指は結紮処置され、右母指は 1 歳時に切除された。経過観察を行っていたが、右手の Five finger 様の外観、第 1 中手骨の低形成、母指球筋の低形成と母指対立不全が徐々に明らかとなり、母指形成不全 TypeII と診断した。この母指低形成、対立不全に対し、小指外転筋移行術を行った。術後、母指対立可能となり、右手を使用するようになるなど機能の改善が見られたためここに報告する。

3. 拘扼輪症候群の 1 例

愛媛大学皮膚科形成外科診療班

○山下昌宏 森秀樹 見崎麻由 中岡啓喜

(5 分)

症例は 1 ヶ月男児。出生前より胎児エコー、CTにて左脛骨・左腓骨の骨折とその周囲にのう胞性腫瘍が認められていた。在胎 37 週 6 日で出生。

出生後両手指、左下腿に拘扼を認め、手指は拘扼の為一部脱落していた。拘扼部より末梢は浮腫が著明であった。右足指は第 II、III、IV 合指症を認めた。

左下腿の拘扼解除目的に生後 1 ヶ月時と生後 5 ヶ月時に 2 期的に左下腿の拘扼解除を行った。治療経過について報告する。

Section 2 (17:55~18:30)

座長：済生会今治病院形成外科 戸澤 麻美

4. 後頭部に発症した、リンパ節転移を伴う eccrine porocarcinoma

四国がんセンター形成外科、2)同頭頸科、3)同整形外科

鈴木良典 1) 河村進 1) 門田伸也 2) 山下安彦 2) 滝下照章 2) 山崎愛語 2)

石川徹 2) 杉原進介 3)

(5分)

症例は56歳男性。約20年前より後頭部に腫瘤を認めていた。炎症を起こしたため前医受診し、切除生検の結果、扁平上皮癌、eccrine porocarcinomaが疑われ、当院紹介受診となった。CTで後頸部を含めた、頸部リンパ節転移を認めた。Eccrine porocarcinomaの診断で、原発巣広範囲切除、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ群頸部郭清、後頸部郭清を行い、前外側大腿皮弁で再建した。Eccrine porocarcinomaはまれな腫瘍であり、治療法に対するエビデンスが確立されていない。若干の考察を含めて報告する。

5. Hemifacial Dismasking Flapアプローチによる腫瘍切除と遊離肩甲骨弁+広背筋皮弁で下顎再建を行った臼後部癌の1例

静岡県立静岡がんセンター 再建・形成外科

中川雅裕 茅野修史 小泉拓也 松井貴浩 桂木容子 山本裕介 永松将吾

(5分)

症例、57歳 女性。 右臼後部癌に対してHemifacial Dismasking Flapと頬骨体部を一度取り除く頭側からのアプローチと、頸部からのアプローチにより上顎部分切除+下顎区域切除を行った。頬骨体部は加温処理した後、元に戻しプレート固定を行った。下顎再建はangular branchによる遊離肩甲骨弁+広背筋皮弁により再建した。術後の整容性や機能性も満足できるものであったので報告する。

6. 国立がん研究センターで行っている頭頸部再建時の内頸静脈本幹への端側吻合の実際

国立がん研究センター 東病院(千葉)・中央病院(東京) 形成再建外科

永松将吾 櫻庭実 宮本慎平

(5分)

頭頸部再建時の内頸静脈本幹への端側吻合は有用な方法であるが、実際の細かな手順には施設による違いがある。

前回は静岡がんセンターにおける手技を紹介したが、今回は国立がん研究センターで行っている方法と特徴を紹介する。

Section 3 (18:30~19:05)

座長：わたなべ皮ふ科・形成外科 渡部 隆博

7. エピネフリン添加キシロカインは向精神病薬服用患者に絶対禁忌か
愛媛労災病院
黒住望 加藤嘉秀
(3分)

昨今、向精神病薬を服用している患者を手術する機会が増加している。最近エピネフリンは絶対使用しないでくださいという患者に遭遇した。向精神病薬はアルファ阻害作用を有するものが多く、禁忌薬とされている。エピネフリン添加キシロカインは我々形成外科医がもっとも常用する薬剤のひとつであると思われるが、今後どのように対処すべきであるか考察を加え報告する。諸先生方のご意見を是非お聞かせ願いたい。

8. 肥厚を伴う巻き爪に対するワイヤー治療
松山市民病院 形成外科
光野乃祐 手塚敬
(5分)

近年巻き爪に対しワイヤーを用いた矯正法が行われているが、爪の肥厚・強度の彎曲がある症例、爪の基部まで彎曲が及ぶ症例では効果が不十分である。そのような症例に対し当院ではワイヤー挿入前に爪を部分的に薄く削っている。それにより爪の肥厚・彎曲部の強度が弱まり、かつワイヤーの力が基部まで伝わるため、矯正当日から良好な結果が得られている。ワイヤー治療における手技の工夫について、実際の症例とともに報告する。

9. 腸腰筋膿瘍、多発膿瘍を合併した仙骨部褥瘡の1例
松山赤十字病院形成外科
○戸田皓大
(5分)

53歳女性。自宅にて転倒。その7日後より原因不明の高熱、食欲不振のため当院内科に入院。仙骨部に褥瘡と排膿を認めたため、同日緊急でデブリードマン施行。膿瘍は筋繊維に沿って拡大し、仙骨・尾骨より排膿を認めた。CTにて腸腰筋膿瘍と、大腿部、足趾や頭部にも皮下膿瘍を認めた。局所処置と抗生剤投与にて全身状態が改善したため皮弁作成にて創閉鎖を行った。仙骨褥瘡に合併する多発膿瘍について若干の文献的考察を加え報告する。

10. シリコンバッグによる豊胸術後5年目に異物肉芽腫を発症した1例

三豊総合病院 形成外科

木村知己 太田茂男

(3分)

症例は33歳女性。約5年前に某美容外科にて両側腋窩より大胸筋下にシリコンバッグを挿入。バッグの詳細は不明。半年前に左乳房内下方に膿瘍が出現し近医で切開排膿したが創閉鎖せず当院紹介。超音波検査上バッグの破損を認めず異物肉芽腫と診断し摘出術を施行。バッグはテキスチャードタイプで破損はなく、被膜内に不良肉芽様組織の付着を認めた。細菌培養は陰性。テキスチャードタイプの異物肉芽腫は報告がない。

特別講演(19:05~19:35)

座長：愛媛大学医学部皮膚科形成外科診療班 森 秀樹

「かいま見たインド医療事情」

済生会今治第二病院（顧問，形成外科） 大塚 壽

昨年12月，インド南西部（Karnataka州Dharwad市）のSDM College of Medical Sciences & Hospital（各学年，約100名で，現在，750床の総合病院；<http://www.sdmhospital.org/>）のDean Prof. Raiから，客員教授として招聘され，講演，多施設見学などを行う機会があった。

短期間の滞在ではあったが，現地で見聞したことに，帰国後，調べ得たことを加味して，以下の項目を中心にインド医療事情について述べる。

- 1) 英国式の医学教育，病院運営
- 2) 講演で関心のあった症例，術式
- 3) インド伝統医療（Ayurveda）
- 4) インドと日本の医療事情比較
- 5) インドの公衆衛生事情
- 6) Apollo Hospitals
- 7) ガンディーの病院批判

愛媛形成外科研修会総会（19：35～）